

猛暑

丸山弘子

猛暑日にちかき昼下り手の甲に汗の滲み来<sup>く</sup>ひりひり痛し

猛暑日になるらしいよと日曜の早朝自転車に少女ら過ぎつつ

町中に友と出会ひぬ猛暑ゆゑまづ涼をとる喫茶店に入る

長袖にもんぺ姿のいでたちに草むしりせり一時間ほど

時季すこし遅れたりしが来年の花を思ひて紫陽花を剪る

ベランダの壁のタイルに油蟬ながなが鳴けり人を恐れず

グレープフルーツの照り葉に黄揚羽黒揚羽産卵なるやこもごもに来つ

手にしたる雑誌の生活歌集欄に友の歌あり息災なるらし

家系ゆゑ認知症の検査を受けしとふ友は小さき錠剤を見る

眼科医の壁にかけある絵の桃のみづみづしさよ八月が来る